

令和4年度 事業計画・報告

特定非営利活動法人 color

1. 児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援	児童発達支援センター くるーる
2. 児童発達支援事業 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 就労継続支援 B 型	みずたま
3. 相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業	相談支援センター さくら
4. 日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5. 基本相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6. 放課後児童健全育成事業	まーぶる
7. 学習支援塾	さいさい
8. ひきこもり支援	ひきこもりサポートセンター いろは
9. その他法人事業	いろいろ 自発的活動支援事業

1. 児童発達支援センター くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	24人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	24人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

(2) 各事業目標および結果

【計画・目標】	【結果】
① 児童発達支援	
利用目標人数(延べ) : 6832人 ・児童発達支援センターとして、専門職の配置、研修に努める。 ・療育説明時や事業所内相談を行い保護者に療育での取り組み、成長の様子、家庭での支援に活かせるようにアプローチしていく。 ・就学への移行について学校と連携し、スムーズな移行につながるように支援する。	利用人数:5290人 契約人数: 69人 ・月1回保育士と言語聴覚士の方に職員のアドバイザーとして来ていただき、遊びのアドバイス、言語聴覚士から見た発達についてや検査の取り方などアドバイスいただき支援に繋げることができた。 ・日中一時支援を利用されている利用児や園などへの送迎で直接療育説明が難しい利用児の保護者に対し、定期的に事業所内相談を行い、療育の取り組みや家庭や園での様子の情報共有ができた。また、集団での事業所内相談の計画を立て実施したが、希望者は1名であった。 ・就学前の利用児に対して就学前に会議を行うことにより、情報提供を行うことができた。
② 放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ) : 490人 ・年齢に応じた支援を行えるよう他事業所への移行もスムーズに行っていく。	利用人数:401人 契約人数: 9人 ・学校での様子や家庭での様子の情報共有し、必要な支援を行った。また、他事業所へもスムーズに移行できるように必要に応じて事業所の見学を行った。
③ 居宅訪問型児童発達支援	
利用目標人数(延べ) : 1人 ・対象となる児童がいないか地区担当保健師や医師と情報共有をする。	利用人数: 0人 契約人数: 0人 ・対象となる児童がいないため、現在利用なし。
④ 保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ) : 190人 ・定期的な訪問を行い、訪問支援での効果を実証していく。	利用人数:59人 契約人数:7人 ・療育での取り組みを園や学校に伝え、同じ方向で支援を行うことができるように取り組んだ。成果については、明らかなものもあれば、明らかな結果につながらず難しいケースもあった。今後はより一層、園や学校と情報共有し、成果を上げていく。

(3) その他(研修・スクラム会議等)

・くるーる会議を定期的に行い、積極的に意見が出し合える会の持ち方を検討する。情報共有により、事故、ひやりハットの減少に努める。	隔週の実施に伴い、各クラスのケースなど全体で検討する機会ができ、支援方法など職員全体で共有することができた。ひやりハットの件数4件増加し、事故に関しては減少した。
---	---

2. みずたま

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	13:00～19:00	10名
②放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～19:00	10名
③保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	
④就労継続支援B型	月～土曜日	9:30～15:30	15名

(2) 各事業目標

①児童発達支援	【結果】
利用目標人数(延べ): 0人/年	利用人数:148人 契約人数:5人
本人の特性、保護者のニーズを就学後の環境も踏まえて考え、就学に向け、それぞれの環境に合わせた支援を行っていく。	就学前健診や説明会などの様子やその時に保護者自身が小学校とやりとりしたことなどを共有し、入学後イメージして支援を行うことができた。子どもの状況に合わせて保護者、園と目標を決めて取り組むことができた。
②放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ): 3219人/年	利用人数:2931人 契約人数:84人
18歳まで長期的な支援を見据えて計画を作成・支援していく。学校や学童での様子をスクラム会議や訪問支援だけでなく、必要に応じて聞き取りし、支援に反映させていく。	いつまでに何が出来たらいいか、その為に今何をすべきかなど、目標の設定と達成基準を保護者と少し先まで考えながら設定、支援することができた。全体的に年齢が上がり、思春期特有のニーズや対人関係など今まで以上に一人ひとりに応じた関りが必要となってきた。
③保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ): 240人/年	利用人数:95人 契約人数:34人
訪問に行った際の学校や保護者との情報共有だけでなく、療育で振り返りを行い、日々の生活により般化できるように支援していく。	利用児の特性をふまえ、訪問当日中に訪問時の振り返りを行った方が良いケースがあり、療育利用日との調整を行うようにした。療育中で振り返ることで、鮮明なうちに本人の気持ちなどを聞き取ることができ、支援につなげることができた。学校の受け入れもよく、支援方法を共有することができてきている。
④就労継続支援B型	
利用目標人数(延べ): 1296人/年	利用人数:760人 契約人数:6人
利用に繋がるための広報活動を行う。仕事だけでなく、余暇を増やすきっかけづくりや交流の機会をはかる。一般の就労や就労継続支援A型へつながるように支援する。	余暇活動では、外部からの参加が少しずつ増えてきており、見学も兼ねて利用につながる方もいた。日々の生活のリズムを整えたり、利用や作業を定着したりすることが主となっており、一般の就労に向けての取り組みはまだ十分にできていない。今後、さまざまな仕事を増やし利用者に応じた仕事を提供していく。

(3) その他(研修・スクラム会議等)

他法人の相談支援専門員と関わるが多くなるため、情報を確実に共有し、役割を明確にし、支援に活かしていく。社内研修以外の研修にも積極的に参加していく。	必要な情報の共有はすることができた。他市など普段あまり関わりのない相談支援専門員とは、会議の前に事前に情報交換をすることで、会議がスムーズに進んだ。医療や他の福祉サービスなどますます連携を強化していく必要がある。
---	--

3. 相談支援センター さくら

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
①特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
②障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

(2) 各事業目標

①特定相談支援事業	【結果】
契約目標人数：20人(継続も含む)	契約人数：19人
精神障害、身体障害等今まで関わりの少なかった障害種別の勉強を行い、さまざまな相談に対応できるようにしていく。	レイユールでつながった相談ケースを通して、成人の利用者数は増加しつつある。障害種別を問わず相談を受け、ニーズに合うサービスを検討し福祉サービスに繋げて行くことができた。 成人期には、関わる支援者が多くなるとともに福祉サービスの調整だけでなく地域生活における課題も見られてくるためますます関係機関との連携を深めていきたい。また、余暇支援などインフォーマルな社会資源の活用も積極的に行っていく必要がある。
②障害児相談支援事業	
契約目標人数：200人(継続も含む)	契約人数：198人
児童発達支援センターにある相談支援事業所として、医療的ケア児、被虐待児など支援ニーズの高い児童に対する対応も積極的に行っていく。	児童相談所やこども未来課等が把握している虐待ケース等に対し関係機関で連携し役割を分担しながら対応していくことができた。施設入所となったケースもあり、今後も継続して本人支援、家族支援を行っていく。また、日常的に保護者から家庭の様子を聞くことで、日々の変化に早期に気づき、関係機関と協力し、フォローすることができた。

(3) その他(研修・スクラム会議)

スクラム会議のあり方について市とともに検討していく。会議の進め方を事業所内で検討し、目的を明確にしながら課題の共有ができるようにする。 事業所、支援機関等の見学に行き、さまざまな情報を入手できるように心がける。	今までのスクラム作戦の取り組みから関係機関での連携が行っていたこともあり、事業所、支援機関等への見学や情報の共有等がスムーズに行えた。 一方で、園や学校のスクラム会議の負担が課題として取り上げられ、開催頻度が見直されている。これを受け、自立支援協議会児童部会でも、スクラム会議のあり方について検討され、次年度からも各ケースにつき、年1回は最低限開催することとし、その後は開催時期を設定せず状況を見ながら、必要に応じて開催していくこととなった。支援者の働き方、保護者のニーズなどさまざまな観点から相談支援専門員として調整をしていく必要がある。また、会議の回数の減少により保護者の不安が増加しないよう定期的なモニタリングを継続して行っていく。
--	--

4. そらのいろ そらのいろ・くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
そらのいろ	月～土曜日	8:00～18:30	15名程度
そらのいろ・くるーる	月～土曜日	8:00～18:30	15名程度

(2) 各事業目標（契約者数 そらのいろ： 98 人 そらのいろ・くるーる： 47 人）

①放課後利用	
自宅では出来ないような、工作やレクレーションを行い、遊びの提案をしていき多くが利用を希望してもらえるようにする。	コロナ中に自宅で過ごせた経験や、利用の年齢層も上がり、学校の友だちと遊ぶことができたりする子どもが増えた。活動内容よりも家庭の事情（保護者の就労支援）による預かり目的の利用が増えてきている。利用児中には、市内の学童との環境が合わず、移行してきた子どももいる。
②土曜日、長期休暇等利用	
感染症に気を付けながら、公共の施設に行ったり、体験活動に参加したり、自分たちで考えた遊びを実現する等、そらのいろでの活動を目的に利用してもらえるようにする。	感染の恐れから、外出活動日の利用を控えていた家庭も、少しずつ参加するようになってきた。普段利用の無い子どもも、外出内容を工夫し子どもたちの興味のある活動にすることで利用する子どもが増えている。利用する人数が多い時には、活動のペースを分けたり、複数のグループに分かれたりして行動することで、トラブルを防ぐことができた。 幼児期から成人期まで年齢の幅が広がっている。成人期の利用者の方に対して十分な余暇の提供ができていないところは今後の課題である。
③送迎利用	
安全に時間通りに送迎できるようにする。学校行事など気持ちが崩れやすい時期を把握したり、その日に何があったか学校と情報を共有したり、切り替えがしやすいように見通しを持った支援を行う。	予約の行き違いや伝達ミスでの遅れがあった。学校の先生からの申し送りは、朝礼などでみずたまとも共有していき、対応方法や療育への支援に繋げた。

(3) その他（研修・スクラム会議）

隔週（2回／月）	
遊び方や遊びの広げ方などの研修に参加していきたい。スクラム会議に参加し、情報の共有や役割の明確化し、支援や遊びにつなげていく。	スクラム会議に参加することで、支援学校などで普段聞けない様子や学校で取り組んでいる支援方法などの共有ができ、過ごし方の幅が広がった。

5.レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

(2) 各支援目標

①保育・教育	【結果】18歳未満 1,493名
<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会に参加し、各園の状況把握や具体的な支援方法の提案を行う。 ・高校へも高梁市スクラム作戦について周知してもらえよう働きかける。 ・自立支援協議会(児童部会)との連携、情報の共有の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会への参加と巡回訪問により、具体的な支援方法を園と一緒に検討することができた。 ・スクラム会議の開催について関係機関にアンケートを実施。会議の必要性については、園、学校も感じられているものの回数が多さに負担を感じるという意見もあった。そのため、次年度から、最低でも年1回は必ず開催しその後は必要に応じての開催となる。 ・スクラム作戦について高校等への働きかけはできなかった。
②就労・成人期	18歳以上 2,098名
<ul style="list-style-type: none"> ・本人のニーズと家族のニーズ、職場のニーズ等すり合わせを行い、支援の方向性等を統一し対応していく。ひきこもりサポートセンターとも連携していく。 ・自立支援協議会(就労部会・地域生活支援部会)との連携、情報の共有の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族との関係作りを行い、丁寧に関わっていくことでニーズを明確化し、支援の方向性等を検討していくことができた。結果として信頼関係もでき適切な支援に繋げることができた。 ・就労部会では、工賃向上と就労支援を主として取り組んできた。工賃向上については、市内のイベント等に参加し販売を行った。就労支援は、就職面接会の検討をしたが、参加企業がなく高梁市だけでの開催は、難しいため、次年度は、総社市や新見市と合同開催を検討していく。 ・地域生活支援部会では、主に地域生活支援拠点についての検討を行っている。他の県や市での先駆的な取り組みを学びながら、高梁市にある社会資源を活用し、どのような地域拠点整備体制が図れるのかを検討していった。
③その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談センターの周知、役割の明確化。 ・地域生活支援センターI型の設置に向けて高梁市との話し合いを進める。color のできることについて検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談センターの役割については、関係機関には少しずつ浸透しつつあるが、高梁市民への周知については、まだ十分ではない。 ・I型の設置に向けて市との話し合いは進んでいない。

(3) その他(センター内会議・関係機関関係 等)

<ul style="list-style-type: none"> ・4事業所の相談員の対応の統一をどの様にしていくか検討。 ・ケースの追跡を漏れなくするためにはどうしたら良いかを検討。 ・障害分野関係なく相談員が対応していくためにはどうしたら良いかを検討。 ・県や市主催での研修等に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4事業所の相談員が曜日ごとに変わっての対応となるため、特定の相談者への対応の統一を図るよう試みた。しかしながら、各事業所内での相談員が固定化されていないことや相談員の捉え方にも差があるため、統一した対応を取ることは難しかった。 ・相談に来られても追跡をせずに終わってしまうケースもあり、なるべく初回の面談で終わらないよう、次の予定を決めておくことが必要であると感じた。
--	--

6. まーぶる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
まーぶる	月～土曜日	8:00～18:30	8名程度

(2) 各事業目標 登録人数：2名(夏季休暇中のみ7名)

①放課後利用	【結果】
放課後の短い時間の中で、宿題も取り組み、遊びも充実できるように、工夫していく。少人数の学童出ることを活かし、遊びや空間づくり、悩みなどの聞き取りを行っていく。	平日の利用者がほとんどいなかった。利用者が少ないことで、結果的に個別対応となる為、個別に応じた遊びを提供することができた。
②土曜日、長期休暇等利用	
活動が繰り返しにならない、利用児の疲れなどの長期の見通しを持って活動や行事を提供していく。公共機関など利用し外出も検討する。	日々、同じ活動にならないように、利用児の希望なども含めながら、活動を考えた。感染対策をとりながら、公共の機関も活用し、外出することもできた。

(3) その他(研修・関係機関連携 等)

遊びや学童の研修に積極的に参加する。本人や保護者の話から必要に応じ、関係機関と連携していく。	学童の研修に参加し、スキルアップの研修にも参加することができた。
--	----------------------------------

7. 学習支援塾 さいさい

登録人数 10人(延べ400人/年)	登録人数 10人(延べ300人/年)
事業所のスタッフが講師となっていることもあり、勉強面での苦手な所や得意な所以外に、利用児の特性も踏まえて学習支援をしたい。保護者とも対面する機会があるので、状況等情報共有していきたい。	そらのいろやみずたまの状況も踏まえながら、個別で学習の提案をすることができた。年齢がさまざまであり、今後、学習の内容などを検討していく必要がある。学校とも連携していき、学習の進め方などを調整していく。

8. ひきこもりサポートセンター いろは

相談人数 20人/日(延べ240人/年)	相談人数 平均 17.3人/日(延べ208人/年)
今年度より高梁市より委託事業になる予定。市内のひきこもり状態にある方の実態を確認していく。 支援方法については、先駆的に活動している活動している市からアドバイスをもらいながら行っていく。 また、市内の関係機関とも役割分担を行い適切な支援につなげていく。	6月より高梁市から委託開始。 ひきこもり状態が長いケースについては、今後の支援も長期化していくと思われる。 高梁市としての取り組みは今年度は行われなかったため、来年度以降実態調査、情報の共有などを行っていく必要がある。 倉敷市のひきこもり支援センターの方を講師に、研修の開催を行い、地域の保健師や行政関係者、他市町村の支援者等の参加があった。今後も先駆的な取り組みを参考にしていく。

9.その他 法人事業

(1) 各事業目標

①スタンプラリー	
利用目標人数 人	実績 0人 新型コロナ拡散防止のため中止
新型コロナ感染拡大防止のため中止	
②夏祭り	
利用目標人数 人	実績 164人
新型コロナ感染者の状況により開催を検討	感染対策をとりながら、8月20日に開催。天候の悪い中ではあったが、久しぶりのイベントに参加者から喜びの声があった。出店協力事業所で、直前にクラスターが発生する等、可能限りの感染対策に取り組んだものの、数日後に法人内で職員・利用者ともに感染者が多くみられ、その後、くるーは臨時休業としたため、冬のイベントは開催を見送ることとなった。
③Winter Festival	
利用目標人数 人	実績 0人 新型コロナ拡散防止のため中止
新型コロナ感染者の状況により開催を検討	
⑤ 一時預かり事業	
利用目標人数(延べ) 250人	実績 137人 契約人数 29人
一時預かり事業の認知度は年々上がってきていると思われる。対象の年齢、時間など地域のニーズを確認しながら希望する利用者が使用できやすいように調整していく。	要支援家庭等のニーズを受け、対象児童の年齢を1歳半から8カ月へ引き下げ。利用家庭に偏りはあるものの、職員の評判が良く、知り合いや身内の紹介で少しずつ登録者が増えている。家庭の状況も踏まえ保健師等とも連携していく。
⑥ スタッフ研修(内部)(1~2回/月) 専門職研修 個別支援に関する研修	月に1~2回程度研修を実施。 自閉症の特性の理解や、具体的な事例を用いて支援方法を考え行くなど実践に活かされる研修の内容となった。スタッフが研修を行うことにより互いのスキルアップにつながっている。
⑦外部研修・講習会 ・自閉症研修(1回/2カ月) 川崎医療福祉大学 重松孝治先生へ依頼 ・外部講師研修 家族支援、医療的ケア児研修 触法障害者に関する研修	・自閉症研修(重松先生):概ね隔月に1回で実施 ・TTAP研修(小田桐先生):計5回で成人向けのアセスメント研修の実施(公開研修) ・虐待研修:きなり利用者による体験談 外部講師を招き研修の実施ができています。地域の事業所や学校関係者などの参加もあり地域の障害理解の一助になったと考える。今後も継続を希望する意見が出ている。

<p>⑦ 法定研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児発管(サビ管)更新研修: 2名 ・児発管実践研修: 2名 ・相談支援専門員研修: 2名 ・主任相談支援専門員研修: 1名 ・強度行動障害研修: 2名 ・医療的ケア時コーディネーター研修: 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・児発管(サビ管)更新研修:4名) 福田、井上、瀬戸川、藤井 ・児発管(サビ管)実践研修:1名) 山田 ・相談支援専門員:1名) 薬師寺 ・相談現任研:3名) 井上、瀬戸川、藤井 ・主任相談支援専門員:1名) 川上 ・強度行動障害研修:1名) 柏葉 ・医ケア研修:0名)
---	---

(2) その他

<p>自発的活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ及びステップアップ講座 ・視察研修 保護者を対象に就労先・就労移行支援等の視察研修を行う ・啓発事業(自立支援協議会とも連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ及びステップアップ講座 5回+3回の講座を開催することができた。 ・視察研修 チャレンジ・ド(就労継続支援 A 型)、ハートスイッチ倉敷校(就労移行支援事業所)を保護者6名、スタッフ3名で視察を行った。 親の会の希望により視察先を決定している。成人期に向けてのイメージを持つことができたと好評であり、来年度以降も他の事業所の視察のニーズが出ている。 ・啓発事業 自立支援協議会の各部会の取り組みの中で、障害者週間と合わせ実施している。来年度も継続する予定。
<p>親の会支援(ぶどうの会)</p> <p>月に1回程度保護者が集まれる場を設定し、日常の困りごと、子どものことなどを話せるようにする。家族が主体的に活動できるように支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2土曜日を保護者交流の場として設定することができた。会員数が10名と少なく仕事都合やこどもの関係によっては参加人数が集まらず中止することもあった。気軽に保護者が集まれるような、行ってみようかなと思えるような企画を次年度は検討し、情報発信していく。
<p>高梁市自立支援協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童部会 ・就労部会 ・地域生活支援部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部会は、毎月第2火曜日で開催。 (相談支援センターさくら、発達障害者支援センター担当者参加) ・就労部会は、毎月第3水曜日。 (発達障害者支援センター、みずたま・きなり担当者が参加) ・地域生活支援部会は、毎月日程調整。 (相談支援センターさくら、発達障害者支援センター担当者参加)